

令和元年度全国学力・学習状況調査 学力・学習状況充実プラン 【小学校版】

1	小学校の授業改善に向けて	
(1)	正答数分布の傾向	1
(2)	質問紙調査の傾向	2
(3)	授業改善の方向性	6
2	小学校国語の課題解決に向けて	
(1)	国語の傾向	7
(2)	国語各設問の内容・結果と対応する学年等	8
(3)	国語の個別の課題と改善の方向性	9
3	小学校算数の課題解決に向けて	
(1)	算数の傾向	10
(2)	算数各設問の内容・結果と対応する学年等	11
(3)	算数の個別の課題と改善の方向性	12
4	授業アドバイスシート	
(1)	授業アドバイスシート小学校国語(①～③)	13
(2)	授業アドバイスシート小学校算数(①～③)	23
(3)	授業等アドバイスシート(web掲載予定)	
	◆学力定着事業推進地区の取組	
	◆アクティブ・ラーニング推進地区の取組	

※授業改善のための一例です。

愛知県教育委員会義務教育課

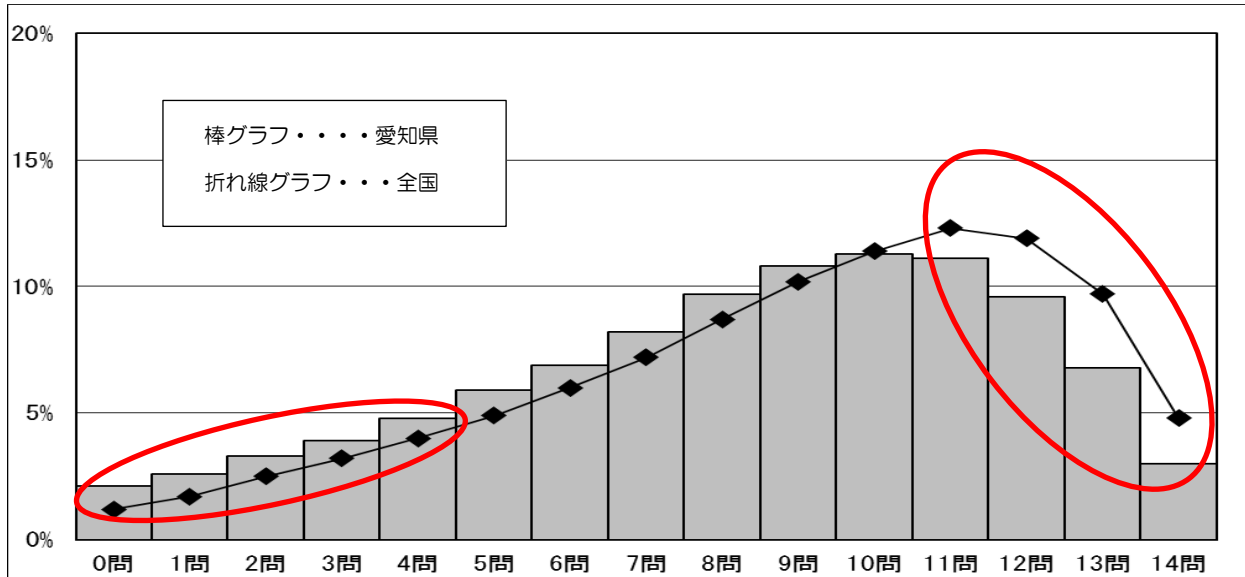
令和元年12月



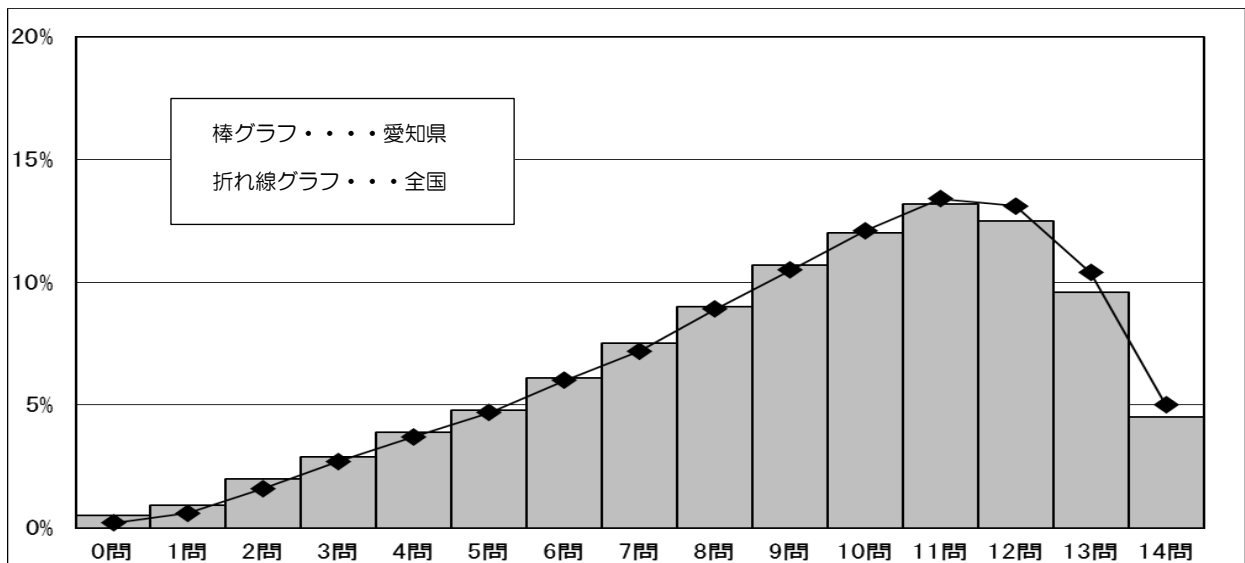
1 小学校の授業改善に向けて

(1) 正答数分布の傾向

小学校国語



小学校算数



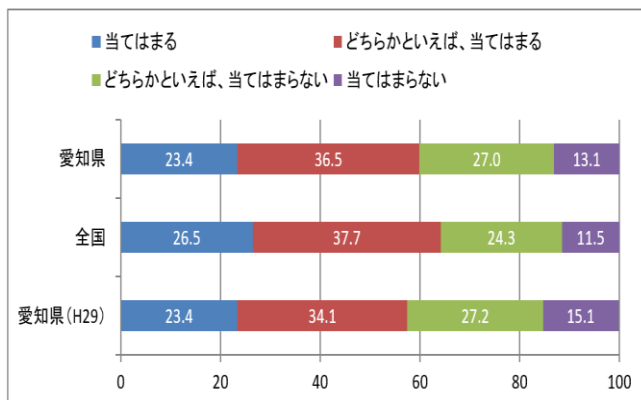
本年度より、これまで分けて実施していた、知識・技能等（A問題）及び活用する力（B問題）を一体的に問う問題に変更されました。算数の分布については全国とほぼ同等でした。一方国語では、分布グラフの丸で囲んだ箇所を見ると、全国と比較して上位層が少なく、低位層が多い傾向があることが分かります。基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、活用する力を身に付ける必要があります。この課題を解決するためには、他の学習や生活の場面で活用することを意識しながら、新しい知識・技能を習得させることが大切です。

今回の調査をもとに、子供たちのつまづくポイントを分析し、日々の授業を改善していきましょう。

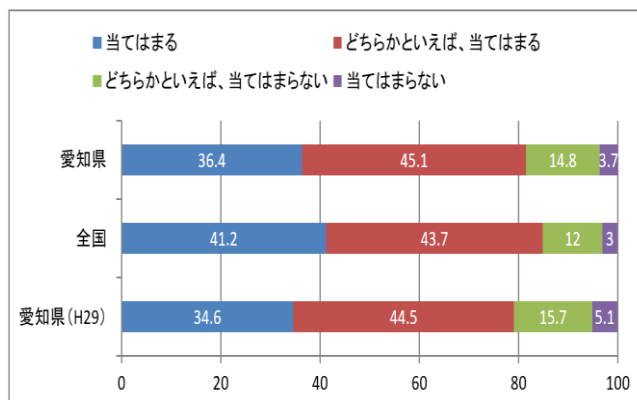
(2) 質問紙調査の傾向

① 国語に対する児童の関心・意欲及び指導方法と学力の関係

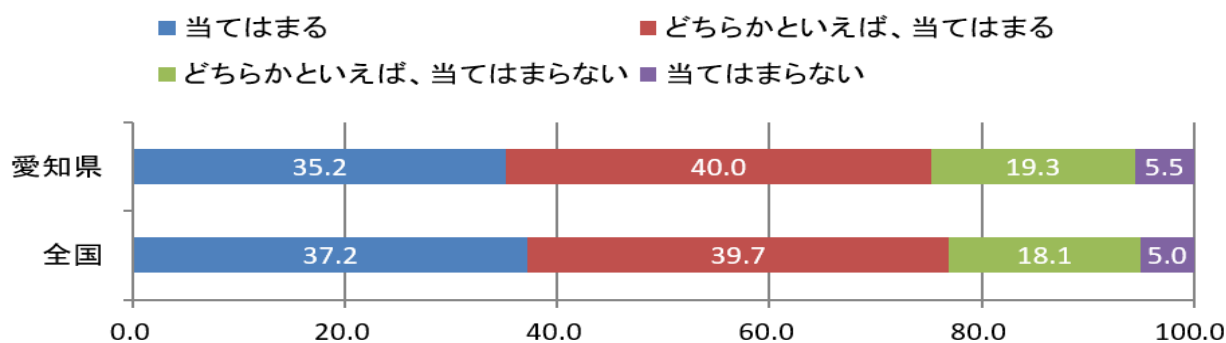
児童質問A 国語の勉強は好きですか



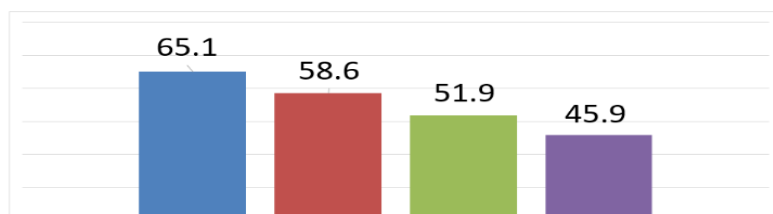
児童質問B 国語の授業の内容はよくわかりますか



児童質問C 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようと考えていますか



質問Cの回答別に集計した、国語の平均正答率（愛知県：％）



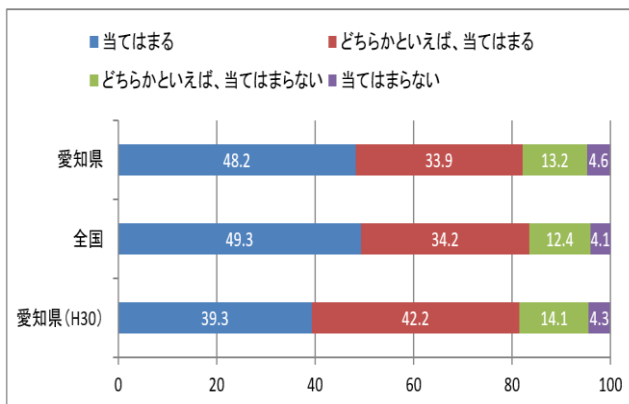
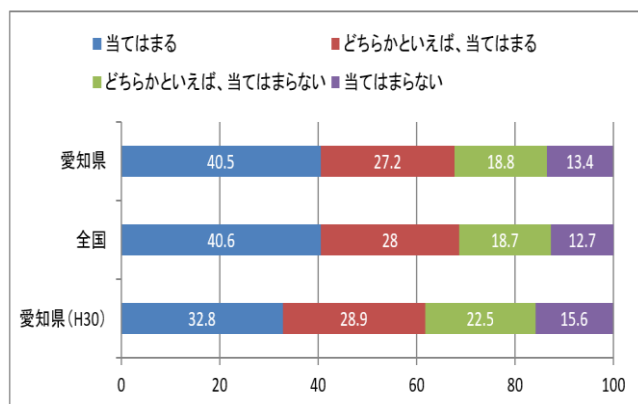
児童質問紙調査の国語に関する項目では、関心・意欲に対する質問A、授業の理解度に対する質問Bともに、同じ質問項目のあった平成29年度に比べて肯定的な回答の割合が増え、改善の傾向が見られました。また、質問Cで「国語で学習したことを生活の中で活用しようとしている」と肯定的に回答した児童は、そうでない児童に比べて高い正答率を示すことが、クロス集計からも明らかとなっています。

愛知県の課題である漢字や語句などの言語事項について、日常生活を意識した学習に取り組むことが授業改善の一つのポイントだと考えます。学習した言語事項を用いた言語活動を行う場面を意図的に設けるなどが大切です。

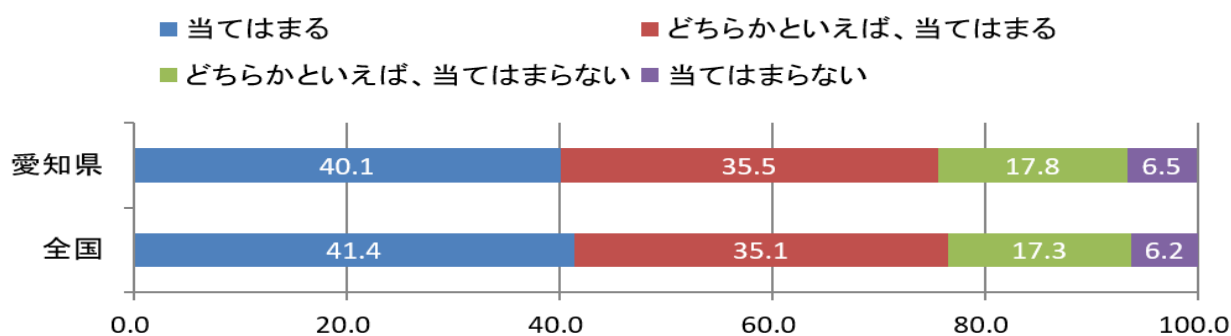
② 算数に対する児童の関心・意欲及び指導方法と学力の関係

児童質問D 算数の勉強は好きですか

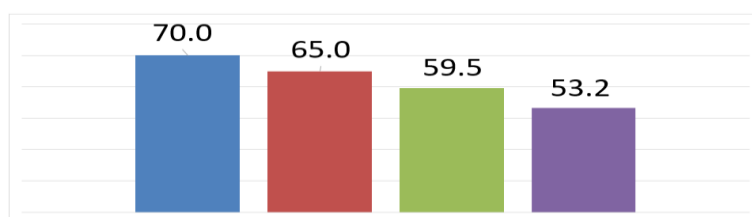
児童質問E 算数の授業の内容はよくわかりますか



児童質問F 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか



質問Fの回答別に集計した、算数の平均正答率（愛知県：％）

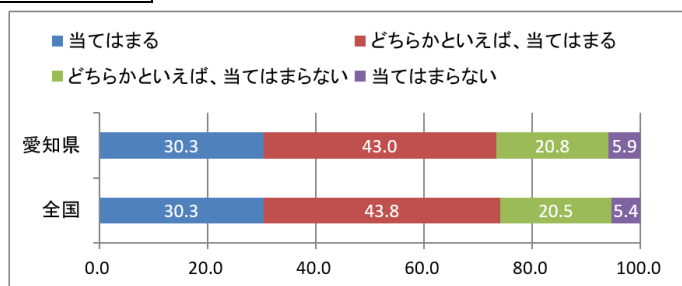


児童質問紙調査の算数に関する項目では、質問D、質問Eともに全国と同等の傾向が見られ、前回調査の平成30年度に比べて関心・意欲、授業理解の点で大きく改善の傾向が見られました。また、質問Fで「算数で学習したことを生活の中で活用できないか考える」と肯定的に回答した児童は、そうでない児童に比べて高い正答率を示すことが、クロス集計からも明らかとなっています。

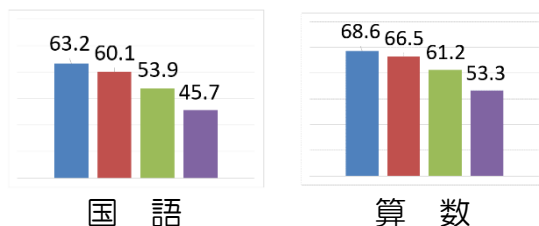
日常生活の中から事象を取り上げ、その問題を解決するために、事象を数理的に捉えて考察したり判断したりする指導を取り入れることが、算数の授業改善の一つのポイントと考えます。学習した内容を使って、数学的に表現したり説明したりする場面を設けることが大切です。

③ 主体的・対話的で深い学びの状況と学力の関係

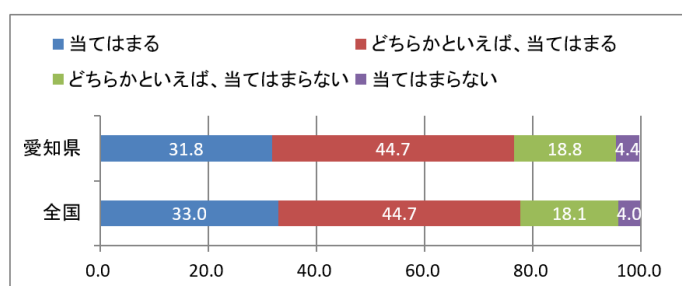
児童質問G 友達との間で話し合う活動を通して、考えを広めたり深めたりしていますか



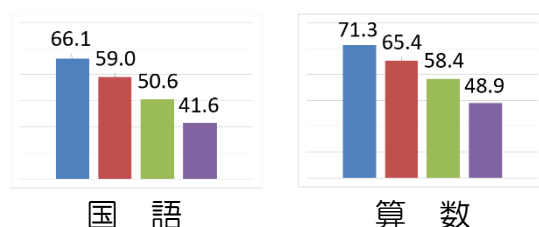
質問の回答と各教科の平均正答率（％）



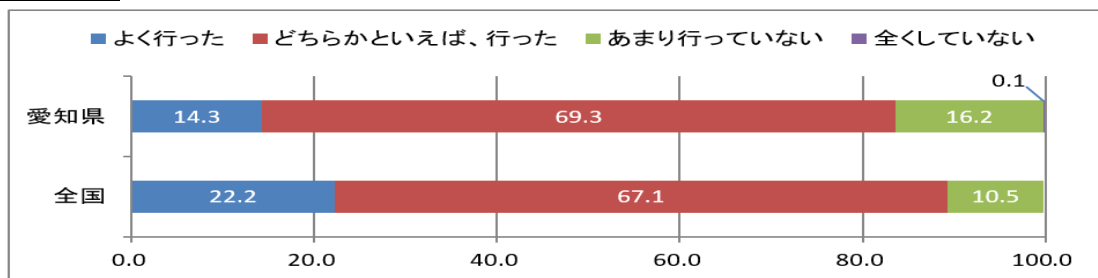
児童質問H 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



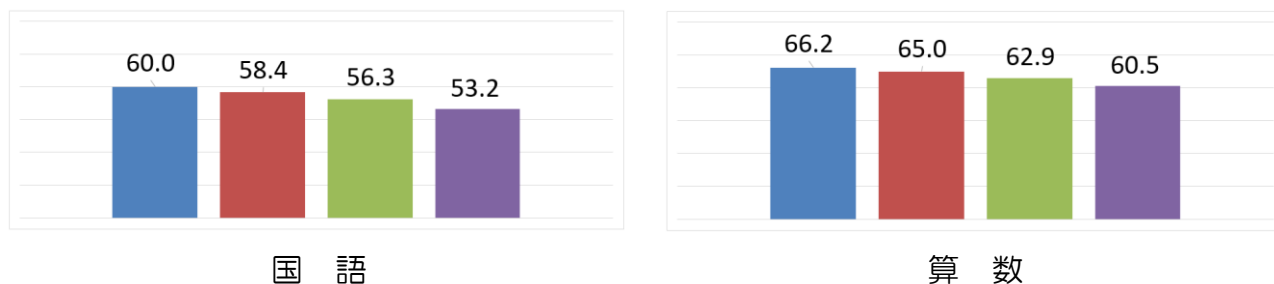
質問の回答と各教科の平均正答率（％）



学校質問I 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善をしましたか



質問の回答別の各教科の平均正答率（愛知県：％）

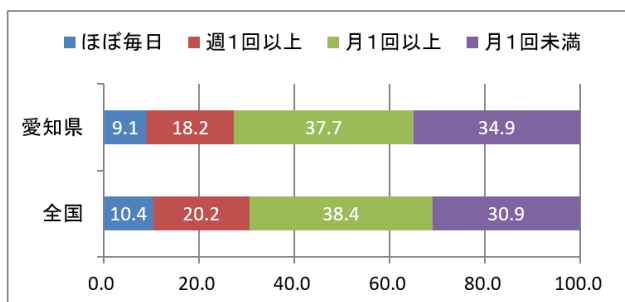


児童質問紙調査の「主体的・対話的で深い学び」に関する項目について、質問Gや質問Hを肯定的に回答した児童の割合は、全国と同程度の結果です。一方、学校に対する質問Iで、「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善をした」と肯定的に回答した学校の割合は、83.6%でしたが、昨年度より減少し、やや全国より少ない結果となりました。

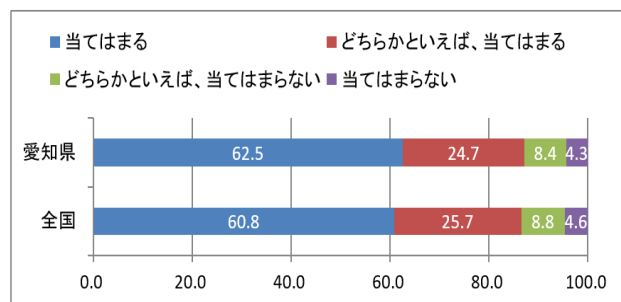
これらの質問に肯定的に回答した児童や学校の方が、平均正答率が高いという傾向が見られます。新学習指導要領を意識し、「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善を続けていきたいと思います。

④ ICTを活用した学習状況と教育の情報化について

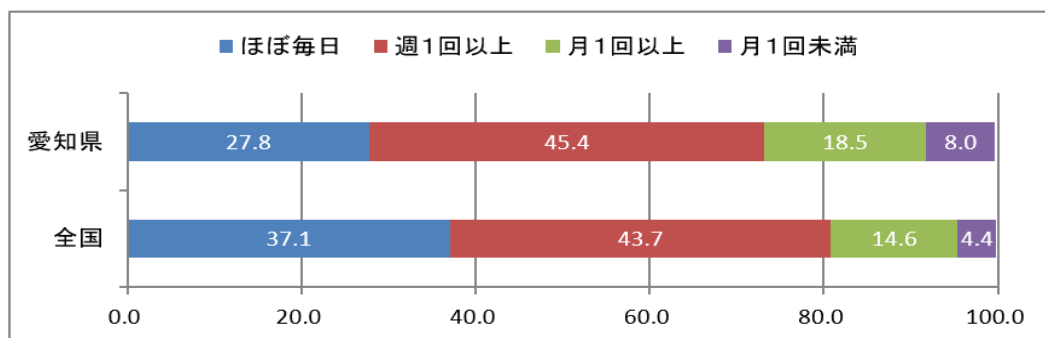
児童質問J 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



児童質問K 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか



学校質問L 調査対象学年の児童に対する指導において、前年度に、児童がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか



資料 教育の情報化の実態について、愛知県の現状

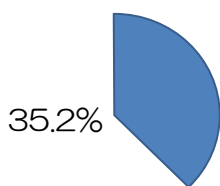
教育用コンピュータ
1台当たりの
児童生徒数



7.5人

〈全国平均：5.4人〉

普通教室の
無線LAN整備率



35.2%

〈全国平均：40.7%〉

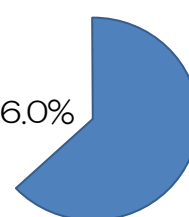
普通教室の
大型提示装置
整備率



48.7%

〈全国平均：51.2%〉

教員のICT
活用指導力



66.0%

〈全国平均：69.7%〉

質問紙調査のICTに関する項目では、質問J（児童の学習活動におけるICT活用）、学校に対する質問L（教員の授業でのICT活用）共に、全国をやや下回っていました。一方、質問Kにおいては「授業でもっとICTを活用したい」と肯定的に回答する児童が87.2%にのぼり、児童のICT活用への興味・関心は高くなっています。

ICTを活用した授業改善により、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現、児童の情報活用能力の向上を図ることが求められています。各学校のICT環境を整え、適切に活用して、学習活動の充実を図りましょう。

(3) 授業改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村・学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。
また、別添の授業等アドバイスシートも活用して、授業改善を図りましょう。

1 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図ろう

児童が「何を理解しているか」「何ができるか」という、知識や技能を確実に身に付けるための学習活動の工夫をしましょう。さらに、身に付けた知識や技術を活用した思考や判断・表現を伴う学習活動を行うことで、より確実な習得や、新たな意欲の喚起にもつながります。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をしよう

授業改善を進めるに当たっては、以下のような観点をもって取り組みましょう。

- ・ 児童が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- ・ 児童が対話によって自分の考えなどを深めたりする場面をどこに設定するか
- ・ 学びの深まりをつくりだすために、知識や情報から考えを形成したり、問題解決に向けた探究活動をしたりするなど、児童が考える場面をどのように組み立てるか

3 ICTを適切に活用し、学習活動の充実を図ろう

各学校のICT環境を整えるとともに、授業や学校の活動の中で効果的にICTを活用し、児童の理解を深めたり、興味を高めたりしましょう。また、ICTを活用した児童の学習活動を通じ、児童の情報活用能力や論理的思考力の伸長を図りましょう。

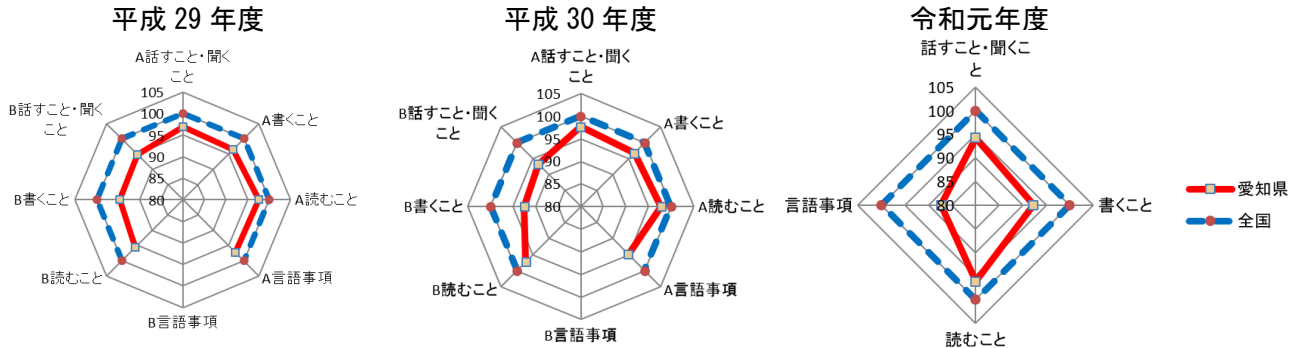
2 小学校国語の課題解決に向けて

(1) 国語の傾向（県の平均正答率は整数値で表示）

平均正答率：愛知県 59%（全国 63.8%）

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向（全国との比較から）

＜全国を基準(100)とした比較＞



※「言語事項」は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- 「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」設問の正答率は全国と同程度である。
- △ 全体として全国より低く、昨年度より差が大きくなった。
- △ 「漢字を文の中で正しく使う」設問において、3問中3問が6ポイント以上低い。「言語についての知識・理解・技能」が全国と比べ6.8ポイント低く、短答式の問題形式でも全国より7.7ポイント低く、課題がある。

＜領域等・評価の観点・問題形式ごとの全国の平均正答率との差＞(%)

年度・調査区分		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度
		A知識	B活用	A知識	B知識	A知識	B活用	知識・活用
教科全体		-1.5	-1.8					
領域等	話すこと・聞くこと	-2.7	-1.7	-2.1	-3.3	-2.1	-1.8	-4.1
	書くこと	-2.4	-2.4	-2.1	-2.9	-2.4	-3.4	-4.2
	読むこと	-1.0	-1.4	-1.7	-2.1	-1.6	-3.4	-3.1
	言語事項	-1.2		-2.1		-3.4		-6.8
評価の観点	① 国語への関心・意欲・態度		-2.8		-3.4		-3.6	-4.4
	② 話す・聞く能力	-2.7	-1.7	-2.1	-3.3	-2.1	-1.8	-4.1
	③ 書く能力	-2.4	-2.4	-2.1	-2.9	-2.4	-3.4	-4.2
	④ 読む能力	-1.0	-1.4	-1.7	-2.1	-1.6	-3.4	-3.1
	⑤ 言語についての知識・理解・技能	-1.2		-2.1		-3.4		-6.8
問題形式	選択式	-1.6	-1.2	-2.0	-2.4	-2.7	-2.2	-3.6
	短答式	-1.4		-2.1	-0.9	-4.8		-7.7
	記述式		-2.8		-3.4		-3.6	-4.4

イ 無解答率から見た傾向（正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問）(%)

設問番号	観点	形式	正答率	無解答率	設問番号	観点	形式	正答率	無解答率
1四(1)イ	⑤	短答	59.4	19.0	1四(2)	⑤	短答	41.6	14.5

国語の無解答率の平均値は8.7%（全国6.2%、30年度の愛知はA問題4.5%、B問題4.7%）であったが、特に短答式の問題形式で無回答率が高かった。正答率が60%未満で無解答率が10%以上の設問数は2問で、設問番号1四(1)イが無解答率19.0%（全国12.1%）設問番号1四(2)が無解答率14.5%（全国11.3%）であった。

(2) 小学校国語各問題の内容・結果と対応する学年等

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率(%)		愛知ー全国	対応する教科書の学年とページ
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	愛知県(公立)	全国(公立)		
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と資料3)をそれぞれのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどをを用いた目的を捉える		5・6 エ			68.1	71.2	-3.1	光村 ⑤P.149 東書 ⑤P.98 ⑥P.90
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の方の工夫を捉える		5・6 ウ		58.4	63.4	-5.0	光村 ⑤P.88,104 ⑥P.190 東書 ⑤P.194 ⑥P.28,118	
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		5・6 ウ		24.3	28.8	-4.5	光村 ⑤P.88,104 ⑥P.190 東書 ⑤P.194 ⑥P.28,118	
1四(1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1)ウ (ア)	33.8	41.9	-8.1	/	
1四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部イを、漢字を使って書き直す(友達にかがらす)				5・6 (1)ウ (ア)	59.4	69.4	-10.0		
1四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)				5・6 (1)ウ (ア)	29.3	35.6	-6.3		
1四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の破線□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く			3・4 (1)イ (ウ)	41.6	47.8	-6.2	光村 ④下P.64 東書 ③上P.46 ④下P.38	
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の アに入る。疑問に思ったこと①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく		5・6 ウ		78.6	80.7	-3.1	光村 ⑤P.178 ⑥P.136,180 東書 ⑤P.31,201 ⑥P.33,61	
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の イに、疑問に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く			5・6 ウ		72.2	75.9	-3.7		
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む		5・6 イ		85.0	88.5	-3.5	光村 ⑤P.36 東書 ⑤P.65 ⑥P.61	
3一	豊職人への【インタビューの様子】の アに入る。自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする		5・6 エ		78.8	81.3	-2.5	光村 ⑤P.63 ⑥P.10 東書 ⑤P.42,212 ⑥P.44,186	
3二	豊職人への【インタビューの様子】の破線□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	目的に応じて、質問を工夫する		5・6 エ		62.5	67.4	-4.9	光村 ⑤P.63 ⑥P.10 東書 ⑤P.42,212 ⑥P.44,186	
3三	【インタビューの様子】の イに、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる		5・6 エ		63.2	68.2	-5.0	光村 ⑤P.63 ⑥P.10 東書 ⑤P.42,212 ⑥P.44,186	
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の ウに入る適切なものを選択する(雷より慣れよ)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる			3・4 (1)ア (イ)	69.1	73.0	-3.9	光村 ③下P.96 ④下P.32 東書 ③下P.42,88 ④上P.76	

(3) 小学校国語の個別の課題と改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村・学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。また、別添の授業アドバイスシート等も活用して、授業改善を図りましょう。

1 日常的に文や文章の中で適切に使えるように、漢字学習の取組を工夫しよう

漢字の読み書きについて、引き続き課題が見られた。平均正答率を全国と比較すると「調査のたいしょう → 対象」の問題が－8.1ポイント、「友達にかぎらず → 限らず」の問題が－10.0ポイントなど、大きな差があった。



- ・児童自身が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章中での正しい使い方を習得できるようにしましょう。

授業アドバイスシート

小学校国語① 参照

<取組例>

- ・「委員会からのお知らせ文」を見直そう 等

2 児童が「自分の考え」を明確にし、その考えの理由を正しく記述できるよう、指導を工夫しよう

設問1の三「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」の平均が、正答率は24.3%と低く、全国と比較して－4.5ポイントと大きな差があった。



- ① 「児童が調べて分かったこと」を基にして「自分の考え」を明確にできるよう、「児童が調べて分かったこと」を視覚的に整理しましょう。
- ② 「児童が調べて分かったこと」と「自分の考え」を区別し、そのことが分かる文末表現となるように心掛けて指導しましょう。

授業アドバイスシート

小学校国語② 参照

<取組例>

- ・「学校生活で気になることを調べて、報告する文章を書こう」

3 必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞くなど、話す・聞く活動の充実を図ろう

設問3の二「目的に応じて、質問を工夫する」と、設問3の三「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」の平均正答率は、全国と比較してそれぞれ約－5ポイントの大きな差があった。



- ① 質問をする際には、誰からどのようなことを聞くのか明確にさせましょう。
- ② インタビューで得た情報を目的に応じて整理し、自分の考えがまとめられるようにしましょう。

授業アドバイスシート

小学校国語③ 参照

<取組例>

- ・「学校のプロフェッショナルにインタビューをしよう」

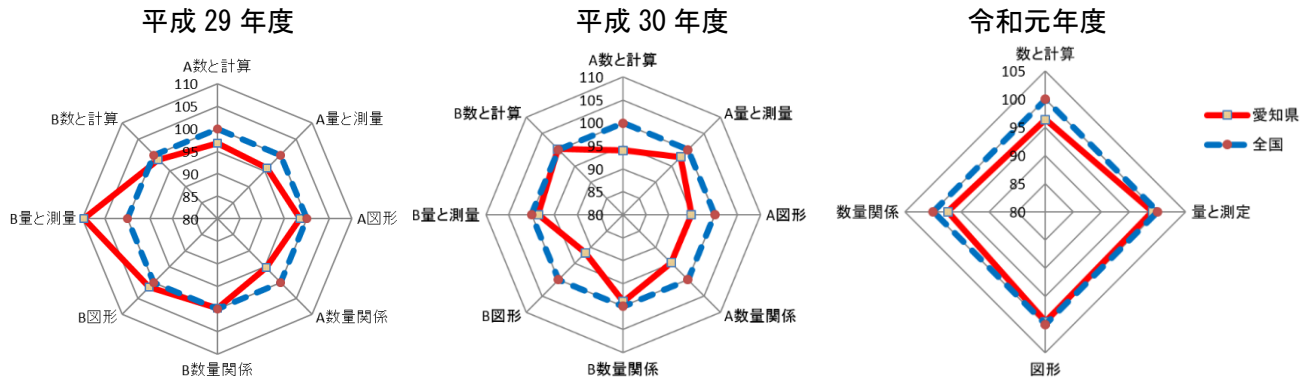
3 小学校算数の課題解決に向けて

(1) 算数の傾向（県の平均正答率は整数値で表示）

平均正答率：愛知県 65%（全国 66.6%）

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向（全国との比較から）

＜全国を基準（100）とした比較＞



- 「量と測定」「図形」領域において、全国との差が縮まり改善が見られる。
- 評価の観点「数量や図形についての知識・理解」において、全国を上回っている。
- △ 「数と計算」「数量関係」領域については、全国とやや差がある状況が続いている。
- △ 短答式の問題形式において全国より3.0ポイント低い。特に加法と乗法の混合した計算について正答率が全国より8.3ポイント低く、課題がある。

＜領域等・評価の観点・問題形式ごとの全国の平均正答率との差＞（%）

全国の平均正答率との差（%）		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	知識・活用	
教科全体の正答率		-1.6	-0.8						
領域	① 数と計算	-0.3	-1.8	-2.6	-0.8	-3.7	0.1	-2.3	
	② 量と測定	-4.2	-0.5	-2.9	4.6	-1.6	-0.8	-0.5	
	③ 図形	-2.6	-0.7	-1.2	0.2	-2.9	-5.0	-0.4	
	④ 数量関係	-2.5	-0.9	-3.7	-0.1	-3.1	-0.5	-1.8	
評価観点	数学的な考え方		-0.6		0.0		-0.4	-0.9	
	数量や図形についての表現・処理	-0.9	-1.8	-2.8		-5.4		-3.0	
	数量や図形についての知識・理解	-1.9	-1.0	-2.3	-1.4	-1.5	-7.9	0.2	
問題形式	選択式	-2.4	-0.7	-2.7	-1.3	-3.1	-2.8	-0.4	
	短答式	-1.3	-1.3	-2.5	-0.4	-2.2	-0.6	-3.0	
	記述式		-0.6		0.6		0.4	-0.5	

イ 無解答率から見た傾向（正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問）（%）

設問番号	観点	形式	正答率	無解答率
3 (2)	②	記述	30.4	13.2

算数の無解答率の平均値は3.5%（全国2.7%、30年度の愛知はA問題3.7%、B問題8.9%）で昨年度よりも改善されているが、依然として全国より高い数値を示し、課題がある。特に記述式の問題形式で無回答率が高かった。正答率が60%未満で無解答率が10%以上の設問数は1問で、設問番号3（2）が無解答率13.2%（全国10.8%）であった。

(2) 小学校算数各問題の内容・結果と対応する学年等

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)		愛知 全国	対応する教科書の 学年とページ	
			数と 計算	量と 測定	図形	数量 関係	愛知 県 (公立)	全 国 (公立)			
1 (1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している			4(1) アイ			93.3	93.1	0.2	④上P.70 71
1 (2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる			4(1) イ 5(1) イ			59.4	60.3	-0.9	④上P.70 71 ⑤P.121
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる		5(1) ア				44.3	43.9	0.4	⑤P.121 124 125 128 129
2 (1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる				3(3) ア		94.5	95.2	-0.7	③下P.66 67
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる	4(3) イ			3(3) ア		76.6	78.6	-2.0	③下P.66 67 ④上P.117
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる		5(4) ア		3(3) ア		51.8	52.1	-0.3	③下P.72 ⑤P.150
2 (4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	4(5) ウ			4(2) ア		51.8	60.1	-8.3	④上P.89 97 ④下P.39
3 (1)	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	3(2) イウ					80.3	81.8	-1.5	③上P.60
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	3(2) ア 4(3) エ					30.4	31.1	-0.7	④上P.117
3 (3)	被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる	4(3) イエ					73.4	74.9	-1.5	④上P.117
3 (4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	5(3) アイウ			3(1)		47.2	47.0	0.2	③上P.26 ⑤P.51
4 (1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる				4(1)		82.1	82.7	-0.6	④下P.85
4 (2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求め式を書く	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	3(3) イ					66.8	68.6	-1.8	③下P.96 97
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる		5(4) ア		5(1) ア		61.2	62.6	-1.4	⑤P.150

(3) 小学校算数の個別の課題と改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村・学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。また、別添の授業アドバイスシート等も活用して、授業改善を図りましょう。

1 複数の資料が示す意味を理解させ、資料から分かることを読み取らせよう

設問2(3)「資料の特徴や傾向を関連付けて判断し、その理由を記述する」の平均正答率は51.8%と低く、正答の中にも「単位量当たり」の考え方が十分に記述されていないものが多かった。



- ① 2つの数量から分かることを読み取り、説明する場面を設定しましょう。
- ② 複数のグラフを基に比べるために、何に注目するかを考えさせましょう。

授業アドバイスシート

小学校算数① 参照

<取組例>

- ・「たくさん本を読んだクラスを考えよう」

2 図形と式を関連付けて説明する活動を通して、図形についての理解を深めさせよう

設問1(3)「減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く」の平均正答率は、44.3%と低く、全国と比較して-0.4ポイントの差があった。



- ① いくつかの図形を組み合わせた図形から、面積の公式を理解している図形を見付ける場面を設定しましょう。
- ② 図形と式とを関連付け、面積の求め方について説明する場面を設定しましょう。

授業アドバイスシート

小学校算数② 参照

<取組例>

- ・「図形と式とを関連付け、説明しよう」

3 計算で成り立つ性質を見いだして表現し、活用する活動を取り入れよう

設問3(2)「減法の計算のまとめを基に、除法の計算の仕方についてまとめて書く」の平均正答率は、30.4%と低く、全国と比較して-0.7ポイントの差があった。また続く(3)「 $600 \div 15$ を工夫して計算する」設問の正答率も全国を下回った。



- ① 既習事項を基に、計算の性質を見いださせ、算数の用語で説明する活動を設定しましょう。
- ② 見付けた性質を活用して能率的に計算しようとする機会をもち、その良さを実感させましょう。

授業アドバイスシート

小学校算数③ 参照

<取組例>

- ・「かんたんに計算できる方法を発見して、計算名人になろう」